

企業統治の正鵠 長島 徹×牛島 信
(帝人相談役) (弁護士、作家)

経済界

10.6
2015 No.1049

定価630円
平成27年9月23日発行・発売
(隔週火曜日発行・発売)
第50巻第20号(通巻1049号)
昭和45年9月3日第3種郵便物認可

経営のトップに立つ人にクローズアップ



亀井静香
(衆議院議員)

Interview

後藤芳光
(福岡ソフトバンクホークス社長)

Special Interview

筒井義信

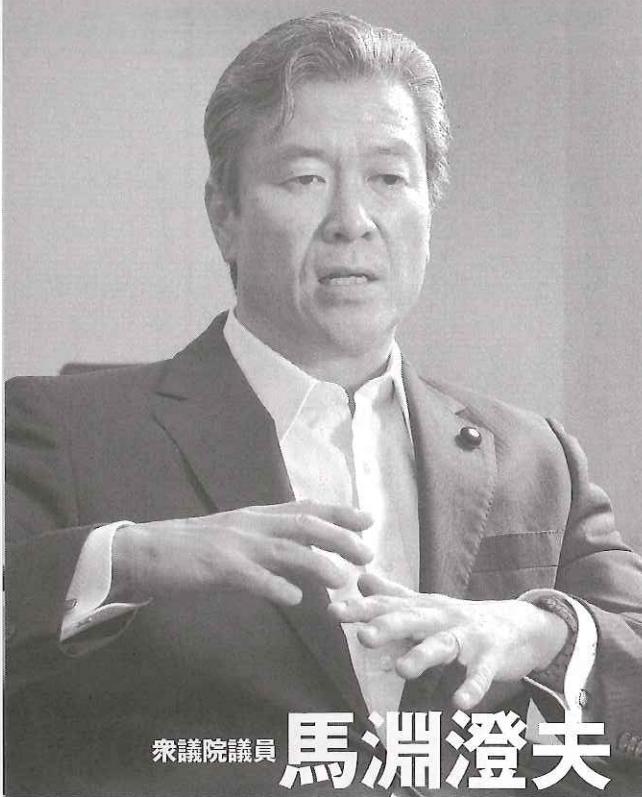
(生命保険協会長、日本生命保険社長)

特集①

一步先の介護

特集②

躍進する中部経済 NTPホールディングス/海帆
矢場とん/さかい珈琲



衆議院議員 馬淵澄夫

(まぶち・すみお) 1960年奈良市生まれ。横浜国立大学卒。2003年衆院議員選挙初当選(当選5回)。国交副大臣を経て10年9月に菅直人第1次改造内閣で国交大臣に就任。現在民主党副幹事長。

安倍政権がテフレ崩壊を課題として設定し、アベノミクスは正しい。しかし、「共生」の理念を踏まえれば、金融政策の先に再分配を見なければならないと思います。

鷺尾 地方でも税務署によっては税収が3割上がったという話も聞きます。しかし、給料が3割上がった事実はない。そこはど思われますか。

高度経済成長期よろしく成長の結果をさらなる投資に振り向けるのが自民党。われわれは低成長時代に即し、再分配に振り向けて、GDPの主軸たる消費の底上げを目指します。

民主党は経済成長を通じ
再分配を行う党である

鷺尾 「民主党ってどういう人
がいるの?」と言われたときに
「偏った人」「賞味期限の切れた
人しかいない」というイメージ
が国民の間にあります。しかし
これは誤解です。わが党には経
験豊富で実務能力もある政治家
がたくさんいるわけで、われわ

を広く国民に訴えていく必要があると思っていています。民主党の経済政策は「具体的な形が見えない」と言われますが、馬淵先生はどうぞ覽になっていますか。

馬淵 その前に、1つ確認しておきたいことがあります。われわれが目指すのは、「何でも反対」の党ではなく、政権交代可能な2大保守政党です。安倍政権

に言われますが、それは違う。眞の保守とは多様性を認めることを一義としています。「共に生きる社会」をつくる、これこそが眞の保守が目指すべき方向です。日本の文化や伝統は、古来より多様性や多様な価値観を認めてきました。「共生」の理念こそ眞の保守であり、われわれはそこに立っているわけです。

上昇に伴い総就業人口は増加し失業率は低下した。金融緩和の出口がないとか、正規・非正規格差の拡大は懸念材料としてあるものの批判ばかりでは「木を見て森を見ず」ということにならないかねません。

われわれは経済成長を促しつつ、その先に再分配を考えます



「保守政党の原点に立ち返り 野党結集で活路を切り拓く」

アベノミクスの施策が功を奏してデフレ脱却の兆しが見えてきた日本経済。産業界は概ね安倍政権への評価が高い。しかしながら安全保障関連法案の強行採決を機に支持率が急落した。野党にとっては千載一遇のチャンス到来だが、残念ながら政権批判票の取り込みに成功しているとはいえない状況だ。国民の間には民主党執行部のなりふり構わぬ対決路線、に批判的な声も聞かれるが、自公政権への対立軸として民主党復活への期待も高い。そこで今回は民主党の次世代リーダーと目されている馬淵澄夫、長島昭久、鷺尾英一郎の3氏に、アベノミクス、外交安全保障、野党再編をテーマに語ってもらった。構成=本誌／清水克久 写真=佐藤元樹

民主党次世代リーダーが語る

革案を考えるべきです。年金元化は、非正規の方たちへの厚生年金適用拡大、最低保障年金は、年金制度の最低保障機能の強化といった形で対応する。また、子ども手当や高校無償化といった政策は、再分配政策として再評価されるべきです。

経済成長に必要なのは少子化対策と技術革新

鷲尾 地方では、現場は人手不足になりつつあり、時給も上がっています。雇用の面ではプラスですが、成長制約になっていますという見方もあります。

馬淵 最低賃金を上げようとい

う声が当然出てくるでしょう。でも、今それをしたら中小の事業者は悲鳴をあげますよ。

鷲尾 しっかりとした賃金を支

けをして市場をつくっていく、払い、ブラック化しないように付加価値を高め、きちんと値付

あるいは市場に受け入れられていくというのは経営の本質です

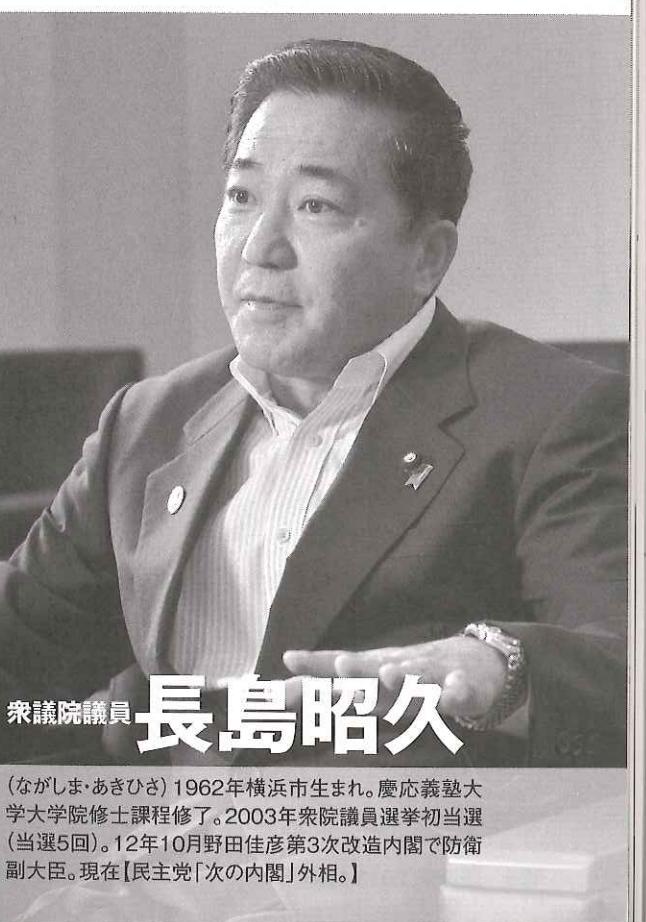
よね。ところが、デフレの時代は人にばかり負担を押し付けて、

結局は日本全体の市場を小さくしてしまいました。ですから、インベーションが叫ばれて久しい

ですが、企業の新陳代謝を促す

長島昭久

(ながしま・あきひさ) 1962年横浜市生まれ。慶應義塾大学大学院修士課程修了。2003年衆院議員選挙初当選(当選5回)。12年10月野田佳彦第3次改造内閣で防衛副大臣。現在【民主党「次の内閣」外相】



長島 経済成長に必要なのは人口の確保と技術革新ですから、大事なのは1に教育、2に子育て支援。そして研究・開発にどれだけ予算をつけて、未来に向かって投資できるかです。アベノミクスは、人への投資がどこに感じになっていますか。

長島 経済成長に求められます。一方、都市部では新たな貧困が生じています。長島先生はどうお感じになっていますか。

政策こそが今、求められます。これは先進国で最悪の数字です。少子化が深刻だと言つて子どもが生まれないことに大騒ぎしている割には、現に生まれてきた子どもを育て上げる意識が低いのではないか。せっかく生まれたものの貧困です。ひとり親家庭の半分以上が貧困状態にある。これはなかなか見えてきません。私が特に深刻だと思つているのが子どもの貧困です。

てきた子どもたちが、学習意欲を失い、学ぶ機会も、ひいては将来の希望まで失いかねないといふのは社会の大きな損失です。民主党が光を当てるとしたらこの部分ではないでしょうか。

格差問題を強調し過ぎるとアンチ・ビジネスに

馬淵 一つ危惧するのは、あまりにも格差問題にわれわれがフーカスし過ぎると、「アンチ・ビジネス政党」と言われてしまふことです。経済成長を促し、再分配政策を着実に行う視点を持ち続けることが重要です。

長島 私もお涙ちょうどい的な「格差」強調で公正な競争にまで水を差すような風潮には危惧の念を持ちました。が、将来世代の教育機会までも奪いかねない格差を是正することは、潜在成長率を伸ばすために必須であ

り、まさしく「プロ・ビジネス」政策そのものです。

鷲尾 率直に言つて、安倍政権の外交安保政策は8割方うまくいっていると思います。同盟強化やTPP、海洋安保、資源エネルギー供給の多角化など、実はほとんどが野田政権の延長です。今や日本に対する国際的な期待も高まっているし国際的な広報戦略もかなり行き届いてきました。中国の攻勢に位負けしない外交レベルまでけています。最後に残されたのが近隣諸国との和解です。

これまで中韓両国に対し無用な挑発・混乱があつて、例えば同盟国米国から「周辺諸国と軋轢が絶えない、危なつかしい外交をやつていいな」と思われるだけでもマイナスだと私は思い

民主党次世代リーダーが語る

ます。相手を挑発するような言動は極力しない。他方、国防・安保保障は静かに進めていく。これが戦略的外交の要諦です。

民主党は外交安保は全然馬鹿
目と思われていますが、野田政
権誕生前後までには、私たちも
随分努力して、かなり現実的な
政策を開いていました。今回
の集団的自衛権の問題も、その
延長線上で民主党がやつていれ

民主党は外交安保は全般

ばこんなに国民の皆さんを不安に陥れることはなかつただろうと思つてゐます。わが党は今、野党という立場で徹底的に批判者に回り、ネガティブ路線一本槍

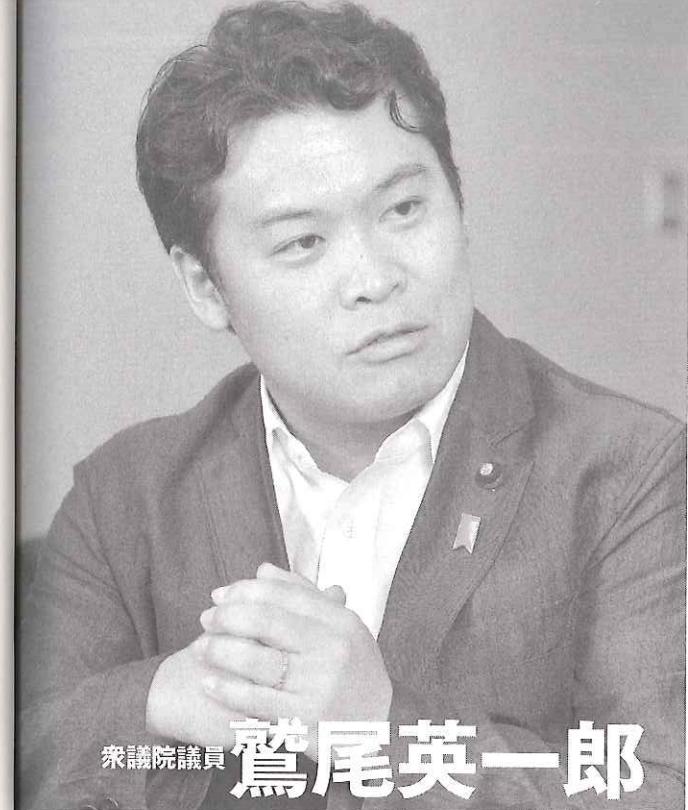
実際に戦略的かつ狡猾に物事を進めています。中韓にはかなり摩擦を生み出すような言動をしつつ、今回の安保法制もしつかりとそこに放り込んでいきました

でもこれが政権運営の強さです。だからわれわれも否定するだけではなくて、学ばなければいけない点もあるのです。

はなっています。そのことが国 民の間でかえって私たちの政権 担当能力に対する疑問符を大き くしてしまっているので、この 状況は非常に残念です。

野党結集のエネルギーは選挙で生まれる

れわれのような対案路線があることを見越して、途中から「対案を出せ」と言い始めたことです。民主党内に反発が出るのを分かっていて盛んに言つてきますね。「対案なんか出せるか」「対案は

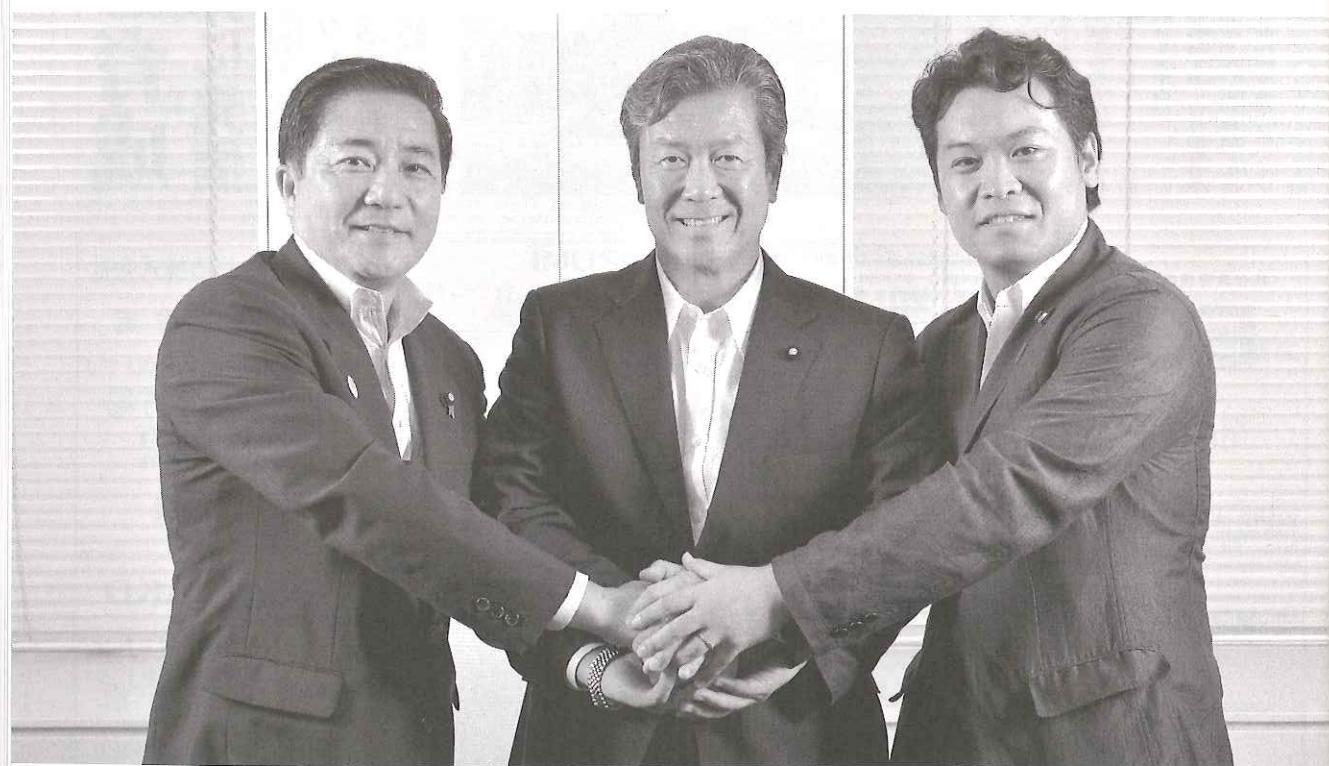


衆議院議員 鶩尾英一郎

(わしお・えいいちろう) 1977年新潟市生まれ。東京大学卒。2005年衆議院選挙初当選(当選4回)。12年10月野田佳彦第3次改造内閣で農林水産大臣政務官。現在民主党政策調査会副会長。

象付けることになるでしょう。馬淵 少なくとも国民からは日本は毅然とした態度で中韓に臨んでいるように見えるでしょ
うが、一方、水面下では関係改善を模索しています。現実に自民党の一階俊博総務会長が特使として3千人を連れて訪中し習近平国家主席と会談もした。自分たちで火をつけて自分で收めてしまふにマッチポンプですよ。

いるわけで、これは与党側のク
リンチ作戦だと思つています。
党内の徹底抗戦派は、「内閣支持
率は落ちたけど、おまえたちの
支持率は絶対上げないぞ」とい
う作戦にはまつてゐるんです。
鷺尾 民主党がもう一度、政権
を担うためには、新しい顔が出
てくることが欠かせません。
長島 野党結集、野党再編とい
うことになりますが、結集軸は



「国民の側に立った政策を掲げて戦っていく」(左から長島氏、馬淵氏、鷲尾氏)